

大-4	コース名： 上級租税セミナー	定員 15名
-----	----------------	-----------

受入期間： 56. 9. 30～56. 10. 17

関係省庁： 国 税 庁

受入機関：

国別応募状況：

国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数
バングラデシュ	2	1	ペ ル ー	2	1
イ ン ド	1	1	タ ン ザ ニ ア	1	0
インドネシア	2	1			
大 韓 民 国	1	1			
マ レ イ シ ア	1	1			
ネ パ ー ル	1	1			
パキスタン	2	2			
フィリピン	1	1			
シンガポール	1	1			
スリランカ	1	1			
タ イ	1	1			
エジプト	1	1			
イ ラ ク	2	1			
アルゼンティン	0	0			
ブラジル	1	1			

受入担当： 北林春美

コーディネーター： 根本雅子，池田ちか子

上級租税セミナー反省会報告

昭和56年12月1日 15:00~17:00

○ 国税庁 企画課

○ 出席者 NTA 土屋専門官・斉藤係長 沢田事務官・田内事務官
JICA 北林、根本(監理員)

○ 議事録

1. 実施記録の確認 参加者・日程等
2. ファイナルレポートの要点のまとめ、問題点と対策の検討

JICA よりの提案	NTA 回答
<p>1. 討論のテーマが広すぎるとい意見が多いので、より限定的なテーマに絞ってはどうか。テーマを2つから1つに減らしてはどうか。</p>	<p>1. 来年度のテーマについて、よりよいテーマに一本化する方向で検討する。</p>
<p>2. 研修員に対し、日本の税制、税務につき簡単な講義を行って欲しい。また単に国際親善のみならず、技術協力プログラムとして、日本側の討論会出席・指導的役割を果たして欲しい。</p>	<p>2. プログラムオリエンテーションまたは現行の講話の中に、その内容を盛り込む方向で検討する。討論会については、来年度はNTA企画課の者が誰か必ず参加するようにする。 (補佐クラス中心)</p>
<p>3. 見学は時間が短かすぎるとの不満が毎年出る。1日に3ヶ所は疲労度が大きいので、テレビ朝日の見学は削除して欲しい。また、見学の日を2日に増やすようにできないか。</p>	<p>3. 見学のアレンジは東京国税局に任せている為、局・署と相談しなければならず、全管理職が対応する関係上、個々の時間延長は無理と思う。テレビ局は削る方向で検討する。</p>
<p>4. 日程が非常にタイトなので、研修旅行から帰ったあと、閉講式の前日に1日offをとるなど余裕をもたせるように考慮して欲しい。</p>	<p>4. 今の日数では無理だが、研修期間が1~2日延びるならプログラムをそのように変えることも可能と思う。ただし、あまり延長するのは対応できないので困る。昼休みは12:00~13:30にしよう。</p>
<p>5. 期間中、1週間は一般コースとの合同になっているが、これは変更可能か。あまり意義が大きいとも思われないが。</p>	<p>5. 今のところ、変更は事務上の負担などふえるので、むずかしい。このままでやるつもりである。</p>

JICAよりの提案	N T A 回 答
<p>6. 現行の討論会を中心のプログラムでは、指導が困難で、日本側が対応し切れていないという印象が強く、研修員からもその種の意見が多いので、この際、日本紹介の講義と見学中心のプログラムに変えてはどうか。</p> <p>7. 定員が多すぎるのでないか。</p>	<p>6. このセミナー設立の目的からして、講義中心はよくない。ただ、日本側の指導、参加が少ないことはわかっているので、その面で改善したい。</p> <p>7. 以前からの受入れ国との関係上へらすことはできない。定員厳守として増やさないように実施したい。</p>

所 感

本年度コースでは、例年のように出ている病人もなく、(軽症の通院のみ)監理員を2名配置した為、運営上特に重大な問題はおこらなかった。研修員のレベルも、過去2年に比べて高く、一応討論が実施できる者が揃った。

地位の上では部長、レベルが主の為、16人の集団で実施する困難はいくつかあった。(日本側で、同等またはそれに近い人が対応できない)

今年度問題となった点で、一番大きく、また毎年出てくる問題は、レポートの発表と討論をメインのプログラムとしておきながら、日本からの参加者が不在であったり、傍観者的でしかなかったという点である。この点は数年前のセミナーと比べて確実に内容が落ちている。

N T A 側の方でも、この点を認め、今後、より積極的に対応するとの回答であった。この面の改善が本セミナーのポイントとなると思う。

また、本セミナーの内容面での担当が、一年おきに、N T A と大蔵主税局の交替となっており、本年はその主税局の順番だった為、特に、対応が粗略だったという感もある。

窓口と、講師(討論会参加者)の所属先が、違うということ、その力関係のことなどマイナスに働いていた。一般租税コースと同様に上級についても、国税庁独自のものとして運営されれば、この点改善の余地はあると思われるのだが。

上級租税セミナー実施報告及反省

- 昭和56年9月30日～10月17日 (18日間)
- 参加数 16ヶ国16人 (定員15)
- (内訳: バングラデシュ・ブラジル・エジプト・インド・インドネシア・イラク・韓国
マレーシア・ネパール・パキスタン・ペルー・フィリピン・シンガポール・
スリランカ・タンザニア・タイ
(割当外)
- 割当国で応募のなかったもの: イラン・クウェート・サウジアラビア・アルゼンティン
- 実施日程

9/30(水)	この日まで	15人	来日	(宿)サンルート東京	
10/1(木)	13:30～	15:30～		JICAブリーフィング(於 サンルート)	
				帰国フライトアレンジ	
10/2(金)	11:00～	11:20		主税局矢沢審議官表敬	
	11:30～			国税庁長官表敬	
	12:00～	13:30		次長主催昼食会	
	14:00			プログラムオリエンテーション	
10/3(土)				休	
10/4(日)				〃	
10/5(月)	10:00～	12:00		エジプト、韓国、日本 発表	}
	14:00～	16:00		マレーシア、ネパール、パキスタン 発表	
10/6(火)	10:00～	12:00		インド、ペルー、スリランカ 発表	
	14:00～	16:00		タイ、バングラデシュ、イラク 発表	
10/7(水)	10:00～	12:00		討論会	}
	14:00～	16:00		ブラジル、インドネシア、フィリピン	
10/8(木)	10:00～	12:00		シンガポール、タンザニア	
10/8	14:00～	16:00		特別講話 旦 日銀理事	
10/9(金)	10:00～	12:00		討論会	}
	14:00～	16:00		特別講話、藤野参事官	
	18:00～	20:00		長官主催レセプション	
10/10(土・祝)				休	
10/11(日)				休	
10/12(月)	10:20～	12:00		東京国税局視察	
	12:30～	14:00		国税局長主催昼食会	
	14:30～	15:30		麻布税務所視察	
	15:30～	17:30		テレビ朝日見学	

10/13(火) 研修旅行 松下電器見学
 10/14(水) " 京都・奈良見学
 10/15(木) " "
 10/16(金) 11:00-11:10 長官表敬
 11:45-13:00 JICA閉講式
 10/17(土) 帰国指定日

- ・病人…… 2名(タンザニア、マレーシア、通院)
- ・早期帰国等事故 無
- ・カントリーレポート

提出状況 ○来日前 ブラジル、エジプト、インド、韓国、ペルーシンガポール、タイ
 スリランカ、インドネシア
 ○来日後 バングラデシュ、パキスタン、イラク、マレーシア、ネパール
 フィリピン、タンザニア

テーマ ① 所得税 11人
 ② 調査 5人

・研修員の意見 (主なもの)

- 1) テーマが広すぎたのでspecificなものにして欲しい
- 2) 且氏の講義はすばらしかったので、今後このようなプログラムをふやして欲しい
- 3) 討論の時間が短かすぎた。
- 4) NTA/MOFのより一層の指導 involvement が必要である。
- 5) 国税局、麻布署では一部の人しか質問できず不満が残った。
- 6) ホテルと会議場が遠すぎる
- 7) 日程が非常にタイトであった。

対 案 from JICA

- 1) 来年度のテーマをやや狭いものにする 2つ → 1つにする
- 2) 来年度も2・3の講義をプログラムに組み入れる。 especially 税制・税務
- 3) } 討論指導者・参加者が常駐するような体制にして欲しい。
- 4) }
- 5) テレビ朝日をカットする(疲労度大でもある)
- 6) より近いJICA契約ホテル
 ダイヤモンドホテル
 フェアモントホテル
 愛宕山東急イン 港、愛宕山1-6-6 } But 新宿の方がBetterと思う
- 7) 日程を1~2日のばす。午後の講義時間を早める

その他 日本の税制についての概要Orientation的なものを加えて欲しい。

ファイナルレポート要旨

バングラデシュ Nurddin

- 今年のテーマは広すぎた。参加国の意見を取り入れた上で、よりSpecificな討論をした方がいい。
- 討論の時間が足りなかった。
- 主催国として日本の参加のレベルを高める為にも、且氏の講義のようなものを増して欲しい。

ブラジル Chianlih

- セミナーの中から学ぶということとはなかったが意見交換、事例の交換の場として有意義だった。
- 且氏の講義はすばらしかった。
- 討論の原稿が来日前に手に入っていたらよかった。
- また、討論の前に、各国の地理：文化経済に関するデータが知らされたい。

エジプト Samir

- エジプトでは税収の大部が所得税なので、セミナーはとても参考になった。
- 特に、バングラデシュのAppeal System 日本の Computer System インドの Search Systemが参考になった。

インド Jhunyhunwala

- セミナーのテーマは広すぎた。テーマは参加国から希望をきいた上で、NTAかJICAが決めたかどうか。
- 主催国(日本)がもっと討論に参加すればより意味のある話し合いができたと思う。
- 且氏の講義のようなものを増やして欲しい。
- 自国の政府にレポートを提出するつもりである。

インドネシア Ilyas

- セミナーにChairmanは必要ないと思う。それより、日本側のmoderatorの必要だ。
- 講義から得るものが多かった。
- ホテルとNTAの距離が遠すぎた。
- スケジュールが一杯の為、大使館等に行けなかった。
- カントリーレポートをCOMPILEしてセミナーのメンバーに配って欲しい。
- 次回はNTAからJICAからセミナーを最後までリードする人を配置して欲しい。

イラク Shiba

- シンガポールのComputer System, インドの search system, バングラデシュのAppeal system は、印象的なideasであった。
- コンピューターシステムを自国でも応用したい。

韓国 Cho

- JICAブリーフィングに役職者のあいさつがあればよかった。
- NTAのオリエンテーションでの日本の税務の説明は不十分だった。日本の制度について知ることもセミナーの目的と思う。1日の講義を望む。
- 国税局、麻布署では2~3人しか質問することができずスケジュールに不満が残った。もっと時間をとって欲しい。

- 且氏の講義は、日本の経済成長、問題について知る事ができずばらしかった。
- NTAの長官と話することができたのはとても印象深く、helpfulだった。
- 今後、日本と韓国の比較研究を計画している。

マレーシア Chew

- レポート発表後の討論時間は少なかった。
- 2つの特別講話は示唆に富み、知識を広めてくれた。
- パーティ等では関係の方々とは色々話す機会を得た。
- 旅行は、みんな疲れぎみだったが大いに楽しんだ。
- 討論のテーマが広すぎるので、例えば、Tax Compliance & Appeal Procedure というように絞った方がよい。
- Self-Assessment, Security of auditors ということについて困り持ち帰りたい。

ネパール Ghimire

- 且氏の講義は、正確でわかりやすく、すばらしかった藤野氏の講義は、意味深かったが、表現がわかりにくかった。
- 国税局、税務署の見学は現場を見られてよかったが時間が少なすぎた。
- テレビ朝日の見学は、あまり良い印象を与えなかった。
- JICA・NTAがファイナルレポートを作って、参加国、来年の参加者に配ったらしい。インドのレポートのように短すぎるのはよくない。

パキスタン Siddiqui

- 一般的なテーマの中で各参加国が特定のsubjectを選ぶ方法がいいと思う。
- 参加者の殆どがHead of DepartmentなのでNTAのHigher echelonsとの討論があればお互いに利益になったと思う。
- 参考文献を持ってくるのに、重量オーバーチャージを払ってほしい。
- フォローアップセミナー(会議)をやってほしい。
- 毎年のレポートを印刷して、前年以前の参加者に送ってほしい。

ベール HUNG

- Income Tax というような一般的なテーマの中に、5~10の特定のテーマを選んで、各人に割当て、発表したらいい。みんなが発表しなくとも、コメンテーターのみの人もあっていい。
- できれば日本の租税専門家をベールに送ってほしい。

フィリピン Saga

- 討論時間が少なすぎた。あと1週間くらい延長してほしい。
- 参加者は無差別にテーマを選んだりせず、レポートに浴って発表すべきだ。
- 税務相談制度を応用したいが人材に欠ける。

シンガポール Goh

- レポートを読むのに時間がかかりすぎている。もっと討論時間を多くとるようにしたい。
- 且氏の講義は、聴く者の注意をそらさず、よかった。
- 藤野氏の講義は、経済専門のものには面白かったであろう。専門的内容だった。

- 参加者は色々と違う興味を持っているので、国税局、税務署では、それぞれの関心ある分野の人と話ができたら、短い時間で一般討論するよりよかったと思う。ただ、言葉の問題があるが。
- テーマをもっと細かく、Specificなものにした方がいい。

スリランカ Fonseka

- 日本での暮らし方について（電話、言葉etc）
オリエンテーションをやってもらいたい。
- コーヒーブレイクをとって、会議室にコーヒーを入れる設備などをえつけたい。
- 特別講話に5時間ぐらいとって、昼休みは1時～2時にしたら
- 民間の税務スペシャリストの講義を
- 来年のテーマに次のものを提案する。
 - a) of tax compliance
 - b) Investigation techniques
- スリランカから、一般コースに2名受入れてほしい。

タンザニア MWENDA

- ペーパーはdescriptiveなものより、analysing & commentary
- Income Tax, Tax Auditはテーマが広すぎるので1つのもっとせまいテーマに。
- 発表時間をもっと少なく、討論時間を長く。
- ペーパーをもっと事前に提出させて各国に送るようにする。
- 経済・租税の分野のエキスパートを、大学、国際機関等から呼んで欲しい。
- 参加者は各国の上から3番目クラスであるべき
- NTAがもっとディスカッションにかかわった方がいい。

タイ Chakri

- セミナーは大変有益であり、特に問題なかった。

研 修 プ ロ グ ラ ム

月 日 曜	講 義 ・ 講 師 等		研 修 場 所 等
	午前 (10:00~12:00)	午後 (14:00~16:00)	
10. 2 金	国 税 庁 幹 部 表 敬	オリエンテーション	国 税 庁 第 一 会 議 室 (次 長 主 催 昼 食 会)
3 土	—	—	—
4 日	—	—	—
5 月	合 同 討 議	同 左	第 四 合 同 庁 舎 ・ 大 蔵 省 第 一 特 別 会 議 室
6 火	同 上	同 左	同 上
7 水	同 上	同 左	同 上
8 木	同 上	特 別 講 話 (日 銀 理 事 ・ 且 弘 昌)	同 上
9 金	同 上	特 別 講 話 (大 蔵 省 大 臣 官 房 参 事 官 ・ 藤 野 公 毅)	同 上 (記 念 撮 影) (長 官 主 催 レ セ プ シ ョ ン)
10 土	(体 育 の 日)		
11 日	—	—	—
12 月	東 京 国 税 局 視 察	税 務 署 視 察 (東 京 国 税 局 管 内)	
13 火	関 西 視 察	同 左	
14 水	同 上	同 左	
15 木	同 上	同 左	
16 金	国 税 庁 幹 部 表 敬		

- (注) 1. 次長主催昼食会：竹橋会館 大手町1141
2. 長官主催レセプション：三田共用会議所 1 港区三田 2-1-8 Tel(03) 581-4671
3. 研修生の宿泊場所：ホテル・サンルート東京 渋谷区代々木 2-3-1 Tel(03) 375-3211

法-1	コース名： 矯正 保護	定員 15名
-----	-------------	-----------

受入期間： 56.5.7～56.7.13

関係省庁： 法務省

受入機関： アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI）

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
インド	0	0	フィジー	1	1
インドネシア	1	1	サウジアラビア	0	0
シンガポール	1	1			
スリランカ	1	1			
タイ	1	1			
大韓民国	2	1			
ネパール	1	1			
パキスタン	2	1			
バングラデシュ	2	1			
フィリピン	1	1			
マレーシア	1	1			
香港	2	1			
チリ	1	1			
ペルー	1	0			
パプアニューギニア	1	1			

受入担当： 石田 幸男

コーディネーター： 山口 治子

矯正保護 FINAL REPORT まとめ

1. 研修面

- a. グループにわかれて、矯正保護基準試案作成のためワークショップが開かれたが有意義であった。時間数がたりなかったので、次回には、増やした方がよい。
- b. 海外から、特別講師を招へいすることは継続すべきである。
- c. 最初の週に、General Orientationがあるのは良いと思うが期間が長すぎる。
- d. 研修は成功であった。

2. 生活面

- a. 土曜日ごとに Home Visit が UNAFEI によって計画されたが日本人の生活を知る上に、意義深い。
- b. アジア極東犯罪防止研修所の宿泊施設に宿泊していればもっと日本人研修員との親交が深まったと思う。
- c. 生活費の額が低い。

昭和56年度矯正保護コース(昭和56年5月7日~7月13日)日程表

56.3.26 作成

週	月	火	水	木	金	土
2	5/18 Orientation Self Introduction Welcome Party	5/19 Director (1) Intro C.I.S (1) 池田(1)	5/20 Intro C.J.S (3) 萩原 (4) 野田 (1)	5/21 Expert Choosup (1) C.S.(1) (2)	5/22 Visit(1) 警視庁 (梅村) Visit(2) 中野刑 (山口)	5/23 高尾山ハイキング (萩原)
3	5/25 Ad Hoc (1) 矯正家庭局長 (池田)	5/26 Expert Choosup (2) C.S.(5) (6) 所長宅Open House	5/27 Expert Choosup (3) C.S.(7) (8)	5/28 Expert Choosup (4) C.S.(9) (10)	5/29 Visit(3) 坂高裁 (池田) Visit(4) 法務省 (萩原) Visit(5) 沢宮招宴	5/30
4	6/1 Staff (1) 梅村 AdHoc(1) 保護局長 (原田)	6/2 日光 (山口)	6/3 旅行	6/4 Expert HiraSingh (1) (山口) C.S.(11) (12)	6/5 AdHoc(3) 矯正局長 (萩原) C.S.(13) (14)	6/6 Home Visit by アン研同窓会 (萩原)
5	6/8 Expert Hira Singh (2)	6/9 広島	6/10 関 (藤原)	6/11 旅行 野田)	6/12	6/13
6	6/15 Staff (1) 藤原 C.S.(17) (18)	6/16 Staff (3) 山口 C.S.(19) (20)	6/17 Visit (5) 東京保護所 (原田) Visit (6) 東京家裁 (池田)	6/18 C.S. (21) (22) C.S.(23) (24)	6/19 Expert HiraSingh Staff(4) 原田 AdHoc (4)	6/20 Home Visit by アジアカラブ (山口)
7	6/22 C.S.(25) (26) C.S.(27) (28)	6/23 フィールド 多摩少 (萩原) 市原刑 (山口) Ad Hoc(5)	6/24 ワーク 久里坂少 (梅村) 武蔵野学園 (西川) Visit (7) 東京少監 (萩原) 工場 (西川)	6/25 Gen.D. (1)	6/27 Gen.D. (2)	6/27 Home Visit by 保護司会 (原田)
8	6/29 Expert Hira Singh (5) Gen D (3)	6/30 Ad Hoc(7) Reference Reading	7/1 Visit (8) 東京少監 (萩原) 工場 (西川) Director (2)	7/2 Case Study 池田 萩原 野田 西川 Evaluation Individual Interview	7/3 Expert HiraSingh (5) Reference Reading	7/4 Home Visit by 保護司会 (原田)
9	7/6 Deputy Director (2) AdHoc(6)	7/7 Ad Hoc(7) Reference Reading	7/8 Director (2) Adoption	7/9 Individual Interview	7/10 Individual Study Closing Ceremony fareure II Party	7/11

* 第1週目は General Orientation

法-2	コース名： 犯罪防止（上級）	定員 20名
-----	----------------	-----------

受入期間： 57. 2. 18 ~ 57. 3. 22.

関係省庁： 法 務 省

受入機関： アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI）

国別応募状況：

国 名	応募数	受入数	国 名	応募数	受入数
ト ン ガ	1	1	サウディアラビア	1	0
シンガポール	2	1	パキスタン	1	1
イ ン ド	2	1	ジョルダン	1	0
アラブ首長国連邦	2	0	イ ラ ク	1	0
フィリピン	3	2	マレーシア	1	1
コスタリカ	2	1	インドネシア	1	1
大 韓 民 国	1	1			
ネ パ ー ル	1	1			
ト ル コ	1	0			
タ イ	2	1			
ブ ラ ジ ル	1	1			
ガ ー ナ	1	1			
モ ロ ッ コ	1	1			
ス リ ラ ン カ	1	1			
ジャマイカ	1	1			

受入担当： 新 田 節

コーディネーター： 池 田 ちか子

ア首連：早期帰国, サウジアラビア
ジョルダン } 来日中止

犯罪防止（上級）実施報告

研修期間：昭和56年2月18日～3月22日

参加数：17カ国 18名（定員20名）
（内アラブ首長国連邦は早期帰国）

研修期間：アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI）

教務担当 藤原 藤一

事務担当 長岡 弘恭

宿舎：アジア極東犯罪防止研修所

研修監理員：池田 ちか子

目的：「効果的、効率的及び公正な刑事司法の運営を確保するための当面の諸問題とその対策」を主要議題として、

(1) 警察から裁判にわたる刑事司法の現状を見直し、(2) 効果的で迅速、公正な刑事事件の取扱いと処理を妨げている障害を明らかにした上で、(3) それらの諸問題を解決するための適切な諸対策を探求し確立することを目的とする。

研修員の意見（主なもの）

- ・研修期間が短いコースであるので、効果的に時間を使い、ディスカッションをもう少し充実させるべきである。
- ・研修以外にパーティが何度もあるのでこれを減らし、余った時間を研修のために使いたい。他の研修員のペーパーを読む時間がほしい。
- ・本研修では、カントリーレポートを使い各国の比較研究に時間を多くついやすいが、これをもう少し能率的に出来ないか。
- ・暖房を夜早く切られてしまったが、これをもう少し長く出来ないか。寒くて何も出来なかった。（生活面）

昭和56年度犯罪防止(上級)コース日程表

	月	火	水	木	金	土
第1週	10:30 Registration 1:40 Orientation 3:00 Self - Intro. 5:30 (Welcome Party)	日本司法イントロ ①犯罪情勢(次長) ②警察・検察(藤原) 日本司法イントロ ③裁判(池田) ④矯正・保護(萩原)	Prof. George, Jr. (1) Individual Presentation (1), (2), (3)	最高裁 法務省 (次官招宴)	Ad Hoc Mr. Nagashima I. P. (4), (5), (6)	甲府刑務所 アジ研同窓会
第2週	Prof. George, Jr. (2) I. P. (7), (8), (9)	Puno (1) I. P. (10), (11), (12) パーティ(かつら又は ホクソン)	Puno (2) I. P. (13), (14), (15)	北海道、関西 旅行(萩原、原田、谷、長岡、甲斐) 網走刑務所	6 大阪高等検察庁	8 大阪拘留所 京都少年鑑別所
第3週	Baxi I. P. (16), (17), (18)	I. P. (19), (20) I. P. (21), (22), (23) (24), (25)	I. P. (26), (27), (28) 警視庁	全体討議(1) (防犯・捜査) 全体討議(2) (検察・ダイバー ション) 総括講義(所長) 参加者によるSeminar 総括評価討論	全体討議(3) (裁判) 全体討議(4) 人権 (コーディネート)	休日
第4週	Baxi (2) Ad Hoc Lec. 伊藤次長検事	Ad Hoc Lec. 警視庁副総監 録倉 Small Group Visit 司法研修所 地裁 警察署	Baxi (3) 八王子医療刑務所 free (reference reading) (thanks Giving Party)	18 Individual Interview	19 Closing Ceremony Farewell Party	20 departure

(昭57.2.4.現在)

国一1	コース名： 国土開発セミナー	定員 9名
-----	----------------	----------

受入期間： 57. 1. 28～57. 3. 14

関係省庁： 国土庁長官官房総務課参事官室

受入機関：

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
インドネシア	2	1			
タイ	2	1			
中国	1	0			
ネパール	1	1			
フィリピン	0	0			
マレーシア	2	0			
チリ	1	0			
パラグアイ	1	1			
イラン	1	0			
オマーン	1	1			
エジプト	2	1			
タンザニア	1	1			
モロッコ	1	0			

受入担当： 梅崎 裕

コーディネーター： 北川 哲郎

昭和56年度国土開発セミナー

研修期間：昭和57年1月28日～3月14日

研修員：Mr. Hanafy Hosseiny Mohamed Ali (エジプト)

他 6名

研修機関：国土庁 長官官房総務課参事官室

参事官 合 田 宏 四 郎

課長補佐 松 田 一 郎

半 沢 昭 一

橋 田 和 仁

583-8931 04 235

583-4325 (直)

宿 舎：サンルート東京

講義場所：東京インターナショナルセンター

航空代理店：ジャパンエクスプレス 大沢氏

201-3290

研修監理員：北川哲郎

昭和56年度第2回国土開発セミナーの概要

1. 集団研修コース名 国土開発セミナー (担当省庁 国土庁)
2. 期 間 昭和57年1月28日～3月14日 46日間
3. 場 所 国際協力事業団東京インターナショナルセンター(TIC)
新宿区市ケ谷本村町42-11
電話 267-2311
4. 目 的 講義、討論及び見学旅行を通じ、日本の国土開発政策及び計画に
関する最新の知識・技術を発展途上国からの参加者に習得させる。
5. 割 当 国 (アジア) インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ネパール、
中国
(中近東) エジプト、イラン、オマーン
(アフリカ) タンザニア、モロッコ
(中南米) チリ、パラグアイ
以上 13か国
6. 参 加 者 数 9名以内
7. 参 加 者 国土開発に関する計画、政策の企画・実施経験を有する40歳以下の行
政官
8. 参 加 手 続 昭和56年11月28日までに上記割当国政府が指名した者のうちから
参加者を決定し、日本政府から12月26日までに通報する。
9. 研修プログラム
10. 講 義
 - (1) 時 間 平 日
10:00 ~ 12:00
13:30 ~ 15:30
 - (2) 方 法 TIC研修室において円卓方式により、原則として講師自身による英
語で行う。
 - (3) 講師数 25人

昭和56年度第2回国土開発セミナー
研修プログラム

- | | |
|---|--------|
| 1. オリエンテーション(JICAによる) | 5日間 |
| 2. 講義及び討論 | 10.5日間 |
| 日本の地域開発政策の歩み | |
| 国土総合開発 | |
| 人口問題と地域開発計画 | |
| 大都市地域開発計画 | |
| 農業開発計画、工業開発計画、土地利用計画 | |
| 地域開発計画、総合交通計画、住宅建設計画 | |
| 公害と地域開発 | |
| 地方振興について | |
| 水資源開発 | |
| 日本の災害対策 | |
| 地域開発計画策定の理論と手法 | |
| 地域開発事業実施について | |
| 3. ケース・スタディ | 1.5日間 |
| 東京／札幌・東苦小牧：大都市計画、地方都市開発計画、大規模工業基地建設計画の実例 | |
| 岡山／掛川：新産業都市の代表例と地方文化の育成を中心とした都市計画を推進している都市の実例 | |
| 4. フリー・ディスカッション(カントリー・リポート) | 3日間 |
| 研修参加国における地域開発の現状と問題点 | |
| 5. 見学旅行 | 9日間 |
| (1) 白鬚東防災拠点、多摩ニュータウン | |
| (2) 鹿島臨海工業地帯、筑波研究学園都市 | |
| (3) 川治ダム、日光 | |
| (4) 広島(基町再開発、原爆ドーム)、岡山(水島、本四架橋)、京都、etc. | |

昭和56年度第2回国土開発セミナー日程

月日	曜日	事 項	月日	曜日	事 項
57.1.28	木	来 日	57. 2.20	土	自 由
29	金	到着手続	21	日	自 由
30	土	自 由	22	月	講 義
31	日	自 由	23	火	"
2. 1	月	JICAによるオリエンテーシ ョン	24	水	"
2	火		25	木	"
3	水		26	金	見学旅行 川治ダム、日光
4	木		27	土	
5	金		午前都内見学 午後自由	28	日
6	土	自 由	3. 1	月	カントリーレポート発表討論
7	日	自 由	2	火	
8	月	講 義 夜 国土庁主催歓迎会	3	水	
9	火	"	4	木	見学旅行 鹿島臨海工業地帯、筑波研究 学園都市
10	水	"	5	金	
11	木	休 日 建国記念の日	6	土	自 由
12	金	講 義	7	日	自 由
13	土	自 由	8	月	
14	日	自 由	9	火	見学旅行 広島、岡山、京都 etc.
15	月	講 義	10	水	
16	火	"	11	木	
17	水	"	12	金	研修評価 閉講式パーティ
18	木	"	13	土	帰国準備
19	金	見 学 白鬚東防災拠点、多摩 ニュータウン	14	日	帰 国

昭和56年度第2回国土開発セミナー
講義時間割

56.11.

月日 曜日	午 前 (10:00~12:00)	午 後 (13:30~15:30)
2月 8日(月)	国土総合開発Ⅰ(課題と現況その1) 国土庁計画・調整局計画課長 長 沢 哲 夫	国土総合開発Ⅱ(課題と現況その2) 国土庁計画・調整局計画課長補佐 照 井 義 則
9日(火)	日本の地域開発政策の歩み 総合研究開発機構理事長 下河辺 淳 国鉄地方交通線対策室長 永 田 尚 久	大都市地域開発計画並びに東京の開発ケース スタディ 国土庁大都市圏整備局計画課補佐 秋 口 守 国
10日(水)	地域開発計画(制度・計画) 国土庁計画・調整局総務課長補佐 宇 田 直 弘	地域開発計画策定の理論と手法 (財)日本立地センター業務部長、主任研究員 藤 田 睦 博
12日(金)	土地利用計画Ⅰ(土地政策の戦後の流れと 直面する問題) 国土庁土地局地価調査課長補佐 山 田 勉	土地利用計画Ⅱ(土地利用基本計画) 国土庁土地局土地利用調整課長補佐 門 間 裕 計画調査局・計画課専門調査官 和 田 繁 樹
15日(月)	土地利用計画Ⅲ(都市計画) 建設省都市局都市政策課長補佐 竹 歳 誠	土地利用計画Ⅳ(土地利用への基礎情報作り) 国土庁計画・調整局国土情報整備室長 照 井 清 司
16日(火)	工業開発計画 通産省立地公害局立地指導課地域振興 室長補佐 加 藤 周 二	農業開発計画 農林水産省大臣官房企画室企画官 大 賀 圭 治
17日(水)	人口問題と地域開発 厚生省人口問題研究所人口移動部長 河 辺 宏	総合交通計画 国土庁計画・調整局総合交通課長補佐 小 山 正 宣
18日(木)	住宅建設計画 建設省計画局国際課長補佐 長 瀬 哲 郎	公害と地域開発 環境庁企画調整局環境管理課長補佐 飯 島 孝
22日(月)	水資源開発Ⅰ(仕組みと水需給計画) 国土庁水資源局水資源計画課 (補佐)専門調査官 三 村 希 一 郎 調整係長 早 瀬 隆 司	水資源開発Ⅱ(事業) 水資源開発公団企画部長 吉 武 英 一

月日曜日	午 前 (10:00~12:00)	午 後 (13:30~15:30)
2月23日(火)	地方振興について 国鉄地方交通線対策室長 永 田 尚 久	日本の災害対策 国土庁長官官房防災企画課長 檜 崎 泰 道
24日(水)	ケーススタディ 掛川/地方文化の育成を 中心とした都市計 画を推進している 都市	ケーススタディ 岡山/新産業都市 国土庁地方振興局総務課長補佐 伊 藤 直
25日(木)	国土庁地方振興局審議官 桑 島 深 ケーススタディ 札幌・東苫小牧 地方都市開発計画 大規模工業基地建設計画 北海道開発庁経済課長 滝 沢 浩	地域開発事業について 地域振興整備公団企画調査部企画課長 仲 津 真 治

行-1	コース名：統計(I)	定員 30名
-----	------------	-----------

受入期間：56.9.17～57.3.31

関係省庁：行政管理庁

受入機関：アジア太平洋統計研修所(SIAP)

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
ブルネイ	1	1	パプアニューギニア	1	1
ブータン	2	2	トンガ	0	0
ビルマ	1	0	西サモア	0	0
インド	3	1	ソロモン	0	0
大韓民国	2	2	ツバル	0	0
ラオス	0	0	キリバス	1	1
モルディブ	1	1	バヌアツ	0	0
モンゴル	0	0	クック諸島	0	0
ネパール	0	0	パンフィックアイランド	4	2
パキスタン	3	1	イラン	0	0
フィリピン	3	2	バングラデシュ	2	2
シンガポール	2	2	インドネシア	4	4
香港	2	2	マレーシア	2	2
フィジー	1	1	スリランカ	7	3
ナウル	0	0	タイ	4	2

受入担当：佐々木 幸男

コーディネーター：研修旅行時のみ 舟川正信, 大西洋子

統計 I コース (一般コース) 研修業務計画

昭 5 6. 6. 4

1. 目 的

各国の統計を国際的水準に高めるため、各国政府統計官に対し、国際勧告の線に沿った人口・社会統計、農業統計、工業統計、国民所得統計等の主要統計の理論及び実務並びに統計技法の研修を行う。

2. 受入機関

アジア太平洋統計研修所

3. 定 員

3 0 名

4. 研修員資格

大学卒または同等の知識・経験を有する者で統計業務に数年の経験を有する E S C A P 域内諸国政府職員 (域外国から受講希望があれば定員の枠外であっても数名程度は受入れることが可能)

5. 日 程

別 紙

(別紙)

統計 (I) コース (一般コース) 日程

1981. 6. 4

1981.	9.17	木	研修員到着
	9.18	金	ブリーフィング
	9.21	月	オリエンテーション
	9.26	土	
	9.28	月	授業開始 (前期) 日本の統計制度行政
	9.29	火	開講式
	11.10	火	関西方面実施研修
	11.14	土	
	12.28	月	年末年始休暇
	1. 4	月	
	1. 5	火	授業開始 (後期)
	2.16	火	南九州方面実施研修
	2.20	土	
	3.22	月	授業終了
	3.23	火	エバリュエーション
	3.25	木	
	3.26	金	閉講式
	3.31	水	研修員帰国

統計Iコース（一般コース）
 関西方面実地研修

1981. 6. 4

月日・曜日	訪 問 先 ・ 目 的
1981年 11月10日 (火)	農林省関東農政局静岡統計情報事務所（作物統計、水産統計を中心とする農業統計業務研修） (泊・京都)
11月11日 (水)	京都大学東南アジア研究センター（研究者が政府諸統計を利用する場合の問題点について討論、資量室見学） (泊・京都)
11月12日 (木)	奈良県総務部統計課（家計調査の実施状況を中心とした地方統計業務研修） (泊・大阪)
11月13日 (金)	大阪府企画部統計課（製造業投入調査を中心とした地方統計業務研修、統計資料室見学） (泊・大阪)
11月14日 (土)	松下電器産業KK門真工場（テレビ生産部門における品質管理の実際及び生産工程を見学） 帰京

統計Iコース（一般コース）
南九州方面実地研修

1981. 6. 4

月日・曜日	訪 問 先 ・ 目 的
1982年 2月16日 (火)	泊・鹿児島(第1班)熊本(第2班)宮崎(第3班)
2月17日 (水)	上記各県の統計主管課(家計調査単位区の設定、世帯名簿作成業務等の見学) 泊・16日に同じ
2月18日 (木)	家計調査対象世帯(家計調査実施状況見学) 泊・16日に同じ
2月19日 (金)	上記各県の統計主管課(上記見学結果の検討会) 泊・16日に同じ
2月20日 (土)	帰京

行-2	コース名： 統計(Ⅱ)	定員 10名
-----	-------------	-----------

受入期間： 56. 9. 17 ~ 56. 12. 23

関係省庁： 行政管理庁

受入機関： アジア太平洋統計研修所 (SIAP)

国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
バングラデッシュ	2	1			
ビルマ	0	0			
インド	1	1			
インドネシア	2	1			
大韓民国	0	0			
マレーシア	1	1			
パキスタン	2	1			
フィリピン	3	1			
シンガポール	3	1			
スリランカ	1	1			
タイ	2	1			
香港	0	0			
パプアニューギニア	1	1			
西サモア	1	0			
イラン	0	0			

受入担当： 佐々木 幸 男

コーディネーター： 研修旅行時のみ 高橋由子, 長谷川芳子, 金田典子

備考： 統計(I)および(Ⅲ)のコース実績報告は SOUVENIR YEARBOOK(英文)として SIAP より毎年提出される。

統計Ⅱコース（ADPコース）研修実施概要

昭. 56. 6. 4.

1. 目 的

統計の集計、編集に必要な電算処理を拡大するため各国政府統計官に電算処理の基礎知識を習得させ電算機に適合する統計調査票の設計、電算機によるデータの審査、各種ソフトウェアの統計業務への適用、これを利用した統計解析等に関する研修を行う。

2. 受 入 機 関

アジア太平洋統計研修所

3. 定 員

10名

4. 研 修 員 資 格

大学卒または同等の知識、経験を有する者で統計業務に数年の経験を有する者で今後電算処理業務に当てる必要のある者

5. 日 程

別 紙

(別紙)

統計Ⅱ ADPコース(S.56)日程

月	日	研 修 内 容	備 考
9	18	JICA ブリーフィング	SIAPスタッフも参加
9	21	} JICAオリエンテーション	
	5		
	26		
	28	所内, アジア経済研究所案内 「日本の統計行政」特別講義 工藤前統計主幹	週間標準時間割は 別添1
	29	開講式, レセプション	
	30	授業開始	
10	下旬	総理府統計局 ADP 部門見学	
11	10	} 関西方面実地研修	日程は別添2
	5		
	14		
11	下旬	九段各省庁コンピュータ共同利用施設見学	
	下旬	特別講義「情報社会」電気通信大学 森口教授	
12	上旬	” 「ESCAP 地域政府におけるADP導入の動向」 伊藤ESCAP地域ADPアドバイザー	
	中旬	日本銀行経済分析情報システム見学	
	18	研修結果報告 作成 提出	
	21	所長インタビューによるエバリュエーション	
	22	閉講式	

統計Ⅱコース（ADPコース）実施研修

1981. 6. 4

月日・曜日	訪 問 先 ・ 目 的
1981年 11月10日 (火)	富士通株式会社 沼津工場（電子計算機の生産工程及び新製システムの性能テスト、実施状況を見学） (泊・京都)
11月11日 (水)	京都大学工学部情報工学科、電子計算機センター及び情報処理教育センター（同大学におけるADP関係要員養成状況を見学） (泊・京都)
11月12日 (木)	奈良県総務部統計課（地方統計業務の電算処理研修） (泊・大阪)
11月13日 (金)	大阪府企画部統計課（地方統計業務の電算処理研修） (泊・大阪)
11月14日 (土)	松下電器産業KK 門真工場（テレビ生産部門における品質管理の実際及び生産工程を見学） 帰 京

STATISTICAL INSITUTE FOR ASIA AND THE PACIFIC
 TOKYO

SPECIAL COURSE ON ADP FOR STATISTICIANS

TENTATIVE Class Roster for the period from 18 Sept. to 22 December 1981

Day	09:15 - 10:15	10:15 - 10:30	10:30 - 11:30	11:30 - 11:40	11:40 : 12:40	12:40 - 14:00	14:00 - 16:30
	Session I	10:30	Session II	11:40	Session III	14:00	
MONDAY	Statistical Methods * (M.N. Murthy)		Introduction Data Processing and PL/I (A.L. Dekker)		Introduction Data Processing and PL/I (A.L. Dekker)		Computer Laboratory
TUESDAY	Management of Statistical Data Resources (T. Kurokawa)		Management of Statistical Data Resources (T. Kurokawa)		Large-file Proces (A.L. Dekker)		Computer Laboratory
WEDNESDAY	Large-file Processing (A.L. Dekker)	S S F C F K	Statistical Methods (M.N. Murthy)	S S F C F K	Computer Methods in Statistical Analysis (A.L. Dekker)	L I N E M A K	Computer Laboratory
THURSDAY	Special Subjects		Statistical Operations * (P.F. Florentino)		Introduction Data Processing and PL/T (A.L. Dekker)		Computer Laboratory
FRIDAY	Statistical Operations * (P.F. Florentino)		Statistical Methods* (M.N. Murthy)		Large-file Processing (A.L. Dekker)		Computer Laboratory

* Combined sessions with General Course

会-1	コース名： コンピューター会計検査	定員 15名
-----	-------------------	-----------

受入期間： 56. 6. 23 ~ 56. 7. 22
 関係省庁： 会計検査院
 受入機関： 八王子国際研修センター
 国別応募状況：

国名	応募数	受入数	国名	応募数	受入数
シンガポール	1	1			
スリ・ランカ	1	1			
パプアニューギニア	2	1			
タイ	2	1			
ネパール	1	1			
パキスタン	1	1			
バングラデシュ	2	1			
ビルマ	1	1			
インド	3	2			
インドネシア	5	2			
大韓民国	2	2			
フィリピン	2	2			
マレーシア	2	2			

受入担当： 新田 節（本部），野福文徳（八王子国際研修センター）
 コーディネーター： 金田典子

ノ 第5回ASOSAIセミナー概要

(1) テーマ及び目的

テーマ：「コンピュータ・システムの会計検査」

目的：国の会計検査に従事する職員に、コンピュータ会計検査の知識と技術を紹介すること。特に、汎用プログラム利用によるコンピュータ化された会計の検査に重点を置く。

(2) 期 間：昭和56年6月25日～7月20日

(3) 実施機関及び施設

実施機関：国際協力事業団（JICA）

実施施設：JICA八王子国際研修センター（HITC）

アジア経済研究所会議室

JICA市ヶ谷電子計算機室

日立製作所大森計算センター

(4) 「コンピュータ・システムの会計検査」に関する第5回A S O S A Iセミナー日程

月	日	曜	プログラム	摘要	宿泊場所
6	23	火	} 研修員到着	出迎え、案内はJ I C Aが実施	
	24	水			
	24	水	J I C A主催オリエンテーション 「日本滞在を乗りこえるための総オリエンテーション」	講師：国際交流協会 横山 総三	
	25	木	10:00-12:00 コース・オリエンテーション	担当：H I T C	
	26	金	14:00-16:00 「日本語」 10:00-12:00 「日本の行政組織」その1 13:45-15:45 「日本の行政組織」その2 10:00-12:00 「日本の経済」	講師：国際交流協会 伊藤 哲子 講師：東海大学 宇都宮 深志 講師：東海大学 山口 房雄 講師：青山学院大学 西岡 久雄	
	28	日	自由時間		H I T C
	29	月	11:00-11:30 開講式 11:30-11:40 記念撮影 13:30-14:00 日程説明 14:00-16:30 「日本の会計検査制度」 10:00-12:00 「財政・会計制度」 13:30-16:30 「コンピュータの利用と会計検査」	藤井事務総局長挨拶（通訳：調査課・関本副長）、参加者自己紹介、本院側関係者紹介（担当：3 監・田中総括）、立会：北野H I T C所長 H I T C 正面玄関前 担当：3 監・田中総括 講師：調査課・山田総括 講師：法規課・阿部係長 講師：信原上席審議室調査官（通訳：サイマル中島）	
	30	火			

月	曜	プログラム	摘 要	宿泊場所
7	水	「コンピュータ入門(ハードウェア・ソフトウェア)」	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	HITC
2	木	「各国の会計検査制度とコンピュータ検査の実状」	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	
3	金	夜 本院及びHITC共催親睦パーティー	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	
4	土	10:00-12:00 電々公社展示室見学 14:00-17:00 都内見学	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	
5	日	自由時間	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	
6	月	「コンピュータ・システムの経済性の検査・ケーススタディ」	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	
7	火	「コンピュータタ化された会計事務の検査方法」	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	
8	水	「同上 ケーススタディ」	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	
9	木	「官庁会計事務データ通信システム不正防止法」 17:30 HITC発、都心へ移動	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	
10	金	旅行(京都) 11:00 東京発(ひかり7号) 13:51 京都着 (本院から田中総括、 関本副長、本多国際協/5:05 京都発(ひかり/40号) 力富、尾上調査課主任/7:56 東京着 の4名同行)	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	グリーンホテル (水運橋)
11	土	自由時間	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	パレスサイド ホテル(京都)
12	日	自由時間	講師：日立製作所・水野昌美 9:30 HITCをマイクロバスで出発、13:30~16:30 工場見学(本院からは磯田審議室審議官他/0名参加)	グリーンホテル

月	日	曜	プログラム	摘要	宿泊場所
7	13	月	「汎用プログラムNHELP紹介」	講師：日立製作所・藤居和夫(研修場所：市谷・アジア経済研究所会議室)	グリーンホテル HITC
	14	火	10:00-12:00九段、コンピュータ・センター見学 13:00-16:30「NHELP実習」	説明：大蔵省及び行政管理局 実習場所：日立製作所・大森計算センター	
	15	水	「コンピュータ・システムの内部統制」	講師：公認会計士協会・金井淳 (通訳：サイマル佐藤、中島) (研修場所：市谷・アジア経済研究所会議室)	
	16	木	「EDF監査ケーススタディ(KAPS実習)」	講師：同上(実習場所：JICA市谷電子計算機室)	
	17	金	同上 (夜)藤井事務総長主催招宴(於八芳園)	出席者：研修員18名の他、JICA(HITC)5名、 日立2名、公認会計士協会2名、本院24名、計51名	
	18	土	10:00-11:30 EVALUATION会議 11:30-12:00 院長表敬訪問	参加者提出のフアイナルレポートに基づき意見の交換(本院官 房会議室) 院長室にて修了証書及び記念品授与(総長、次長立会)	
	19	日	自由時間		
	20	月	閉講式(11:30-13:00)	北野HITC所長挨拶、佐藤/局長挨拶(英語)、研修員代表 D. T. テイン(ビルマ)答辞、JICAの修了証書授与、ペー ジー	
	21	火	} 帰国	諸手続き、見送りはJICAが実施	
	22	水			

(5) 実行体制

昭和56年度A S O S A Iセミナー実行委員会

昭和56年2月23日設置

昭和56年8月31日解散

委員長 藤井健太郎事務総局次長(昭和56.2.23～昭和56.7.5)

肥後昭一事務総局次長(昭和56.7.6以降)

委員 磯田晋審議室審議官

信原行三上席審議室調査官(講師)

吉田知徳会計課長

宮尾明研修官(昭和56.2.23～昭和56.7.5)

天野進研修官(昭和56.7.6以降)

小川幸作調査課長

幹事(審議室) 牛嶋博久総括副長(講師)

田中鶴昭総括副長(昭和56.6/8～

昭和56.7.3/審議室併任)

上田康彦調査官(昭和56.6/8～

昭和56.7.3/審議室併任)(講師)

渡辺孝至調査官(昭和56.6/8～

昭和56.7.3/審議室併任)(講師)

藤田正二調査官(昭和56.6/8～

昭和56.7.3/審議室併任)(講師)

金刺保調査官

高松倫子主任

(会計課) 小久保喜久男総括副長(昭和56.2.23～

昭和56.7.5)

(法規課) 阿部哲係長(講師)

(調査課) 山田昭郎総括副長(講師)

関本匡邦副長(カンントリー・レポート報告会の司会)

本多洋平国際協力官

坂本安人国際係長

昭和56年度ASOSAIセミナー実行委員会設置要領

昭和56年2月23日

事務総長 松尾 恭一郎

昭和56年度ASOSAIセミナー実行委員会設置要領を次のように定める。

第1 昭和56年度ASOSAIセミナーを実行するため、事務総長官房に、昭和56年度ASOSAIセミナー実行委員会（以下「実行委員会」という。）を置く。

第2 実行委員会は、委員長、委員若干名及び幹事若干名をもつて組織する。

2 委員長は、事務総局次長をもつて、これに充てる。

3 委員は、審議室審議官、調査課長、会計課長、研修官及び事務総長の指名する職員をもつてこれに充てる。

4 幹事は、前2項の職員以外の職員のうちから事務総長がこれを命ずる。

第3 委員長は、セミナーの企画及び実行を統括する。

第4 委員は、セミナーの企画に参画し、幹事を指揮してセミナーの実行に当たる。

2 幹事は、委員の指揮を受けてセミナーの企画立案をし、実行準備に当たり、及び実行を補佐する。

第5 実行委員会の庶務は、事務総長官房調査課において行う。

2 セミナー開催までの経緯

本セミナーは、最高会計検査機関国際組織 (INTOSAI) のアジア地域機構として、1979年10月に成立が決定した A S O S A I (Asian Organization of Supreme Audit Institution) が、その規則第2条に規定している「目的及び職務」に則り、公会計検査の分野における知識及び経験の交換を通じて、加盟機関相互間の理解及び協力を促進すること等を企図して開催されたものである。

我が国で開催されたのは昨年続き今回が2度目である。今回迄の A S O S A I セミナー実施状況は次表のとおりである。

(1) 今回までのASOSAIセミナー実施状況

開催国	第1回ASOSAIセミナー	第2回ASOSAIセミナー	第3回ASOSAIセミナー	第4回ASOSAIセミナー	第5回ASOSAIセミナー
テーマ	ファイリピン	インド	スリランカ	日本	日本
期間(日数)	公共事業の検査 1979.9.9~20(12日)	収入の検査 1979.9.17~28(12日)	公企業 の検査 1980.6.30~7.1(12日)	コンピュータ 化された事務 の検査 1980.7.18~8.2(16日)	コンピュータ システムの 会計検査 1981.6.25~7.20(26日)
援助機関	ドイツ国際 開発基金	ドイツ国際 開発基金	ドイツ国際 開発基金	国際協力 事業団	国際協力 事業団
参加者数	36名	36名	33名	30名	18名
内訳					
① アフガニスタン	1	1	0	0	0
② バングラデシュ	2	3	2	1	1
③ ビルマ	1	1	1	1	1
④ インド	3	9	3	2	2
⑤ インドネシア	4 (内2名自費参加)	3	4 (内2名自費参加)	2	2
⑥ 韓国	2	1	1	2	2
⑦ マレーシア	3	3	4 (内2名自費参加)	3 (内1名自費参加)	2
⑧ ネパール	1	2	1	1	1
⑨ パキスタン	1	0	2	1	1
⑩ パプアニューギニア	1	1	0	1	1
⑪ ファイリピン	12	7	2	4 (内2名自費参加)	2
⑫ シンガポール	1	1	1	1	1
⑬ スリランカ	2	2	10	2	1
⑭ タイ	2	2	2	2	1
⑮ 日本	0 (講師2名派遣)	0	0	7 (オブザーバー)	0 (補助者1名)

参考・ASOSAI 成立(1979年)以前に開催されたアジア地域セミナー:ファイリピン(1977)参加/0ヶ国 32名(内ファイリピン/0名) } ドイツ国際開発基金援助
西ドイツ(1978)参加/0ヶ国 24名(他に域外から数名)

・インドで1981年3月に開催を予定されていた「公企業の検査」セミナーはドイツ国際開発基金の援助が受けられず中止となった。

(2) 実行計画決定までの経緯

(年 月 日)	(事 項)
1980. 6.13~14	A S O S A I 理事会 (ナイロビ) において、コンピュータ・システムの会計検査セミナーの継続的实施を要望される
7.18~8.2	第4回 A S O S A I セミナー実施
8.29	第4回 A S O S A I セミナー実施報告及び今後の諸問題について総長審議
9.20	外務省より、本院の56年度研修生受入計画の調査 (経済協力局長から本院次長宛)
24	第4回 A S O S A I セミナー実施報告を検査官協議会に提出 上記外務省の意向調査について、56年度は研修目的及び内容は第4回と同様とし、研修員は各国から1名ずつ、(新規 A S O S A I 加盟国を見込む)、期間/箇月、時期は7月とする構想まとまる
10. 9	外務省の意向調査に対し、上記の構想に基づき本院の希望を回答
27	外務省 (技協一課、小山、力石) 及び J I G A (研修一課、八島課長、下村) と打合せ。本院の希望について説明
12.14	J I G A 八王子国際研修センターと協議。外務省の実施計画正式発表を待たず、急ぎ年内に案内状を作成、56年1月早々に各国宛発送の段取りとする セミナー期間6月23日~7月22日に内定
17	セミナー日程原案審議室にて作成。案内状印刷
12.24	外務省技協一課より、案内状送付先 (研修員国別割当) について協議 A S O S A I / 3 か国、18名の人員配分 (検査官承認) を提示、外務省了承

1981. 1. J I C A、外務省経由で案内状送付開始（申込期日4月23日、受入諾否回答期日5月25日）
- 2/4 A S O S A I 議長、事務総長及び A S O S A I / 3 か
国会計検査院長あて第5回 A S O S A I セミナー開催
通知
- 23 昭和56年度 A S O S A I セミナー実行委員会発足
- 3.20 J I C A の昭和56年度業務実施方針について協議（
外務大臣より本院院長宛）。3月31日、異議ない旨
回答
- 4.20 昭和56年度 A S O S A I セミナー実行委員会第1回
会合。日程案、カントリーレポート質問事項、経費計
画について検討。
日程については、日本の会計検査制度、日本の財政、
会計制度、公認会計士協会によるコンピュータ監査実
習（3日）を前回プログラムに追加する方針決定。
本趣旨について検査官の了解を得、実行計画整う

(3) 準備作業

① 研修方法について

- | (年 月 日) | (事 項) |
|-----------|---|
| 1980/2.22 | コンピュータ監査実習を多くする方針まとまる |
| 1981. 2/3 | コンピュータ監査実習のため J I C A 市谷電算機室使
用について検討 |
| 2.20 | (株)経研と K A P S 汎用プログラム使用料について
協議 |
| 2.26 | 日立製作所と N H E L P 汎用プログラムの実習方法に
ついて協議 |
| 3.27 | 院内で研修構想打合せ（出席：信原上席他10名）。
第1週は J I C A のオリエンテーション、第2週は財
政監督制度及びコンピュータの基礎知識、第3週は本
院講師による専門的講義、第4週は、日立及び公認会 |

- 計士による EDP 監査実習、と方針決定
- 4.13~14 公認会計士との打合せ。J I O A 市谷電子計算機室コンピュータを使用し、監査実習の模擬講義を行う。技術的に実施可能の見込み立つ
- 5.1 電々公社と霞ヶ関ビル30階展示室見学の打合せ
- 5.1.2 日立製作所と打合せ。講義内容決定
- 5.2.2 公認会計士協会及び日立製作所に正式講師依頼
- 6.15~16 公認会計士との打合せ。コンピュータ作動実験を行う。研修員を4グループに分けて実習指導の方針決定
- 6.18~21 講義方法打合せのための合宿（於、真鶴研修施設、参加者：信原上席、田中総括、関本副長、上田調査官、渡辺調査官、藤田調査官、阿部係長）。カントリーレポートのまとめ方、討論会の司会方法、N H E L P 実習方法、K A P S 実習方法、資料整備、講義内容の調整について協議
- 6.19 日立製作所講師と打合せ。7.1のコンピュータ入門の音声応答システム、7.2の日立神奈川工場見学時間割、7.13~14のN H E L P 実習のコンピュータ・オペレーション方法について協議
- 6.25 九段コンピュータセンター見学打合せ（大蔵省、行政管理庁）、東京駅O T C 施設見学打合せ及び正式依頼（国鉄）。通訳者（サイマル、中島、佐藤）と公認会計士協会講師、本院講師と最終打合せ

② 教材の作成について

- | (年 月 日) | (事 項) |
|---------------|---|
| 1981. 4.22~25 | 教材、資料整備方針検討のための合宿（於、真鶴研修施設、参加者：信原上席、牛島総括、上田調査官、渡辺調査官、藤田調査官） |
| 4.27 | 教材原稿作成開始 |
| 5.8 | 教材翻訳開始 |

- 5.15 校閲開始
- 5.29 日本公認会計士協会に教材の使用と校閲について正式
依頼
- 6.1 タイプ開始(一部本院でタイプ)
- 6.8~26 本院において印刷製本を行う

※第5回ASOSA Iセミナーに使用した教材は16ページの表のとおり

③ その他の準備

(JICAとの打合せ) 経費計画、開講式、閉講式の式次第、カン
トリーレポートのまとめ方、京都旅行・都内見学・
工場見学の日程打合せ、日立製作所及び公認会
計士協会との講師契約方法等

(本院内の打合せ) 経費計画、開講式・閉講式・親睦パーティ・総
長招宴・院長表敬訪問の式次第及び出席者、講
師等の出張計画、配車計画、記念品の選定等

(4) 第5回ASOSA Iセミナーに使用した教材

教 材 名	原 価 担 当	ペ ー ジ 数
1 昨年作成し、本年も使用した教材:		
① 会計検査院の概要	Kaikei-Kensa-In (Board of Audit)	岡本(調査課) 29
② 会計検査院関係法令集	Board of Audit Law, etc.	山田() 29
③ 1977年度検査報告の概要	The Audit Report on Final Accounts for Fiscal 1977 - Summary -	() 82
④ 会計検査院100年の歴史	History of the Board of Audit of Japan - A Century of Public Financial Control -	() 48
⑤ コンピュータの利用と会計検査	Computer Utilization and Audit	信原(審議室) 18
⑥ コンピュータ入門	Introduction to Electronic Computer System	(日立製作所) 41
⑦ 汎用プログラムNHELP入門	Introduction to NHELP	() 55
⑧ コンピュータシステムと会計	Computer System and Accounting	信原(審議室) 13
⑨ コンピュータシステムの経済性の検査	Audit of the Economy and Efficiency of Computer Systems, Case Studies	渡辺(鉄ノ) 71
⑩ ADPS・検査マニュアル	ADPS Audit Manual	() 29
⑪ コンピュータ化された会計事務の検査	Audit of Computerized Operation of Audited Organizations and Case Studies	藤田(護 産) 102
⑫ 官庁会計事務データ通信システム	Outline of Data Communication System for Accounting in Governmental Agencies	上田(上 科) 63
	計	580
2 本年新たに作成した教材:		
① EDPシステムの内部統制質問書	Questionnaire on Internal Control of EDP Systems	(公認会計士協会) 98
② EDPシステムの内部統制の基本的理解	Fundamental Understanding as to Internal Control of EDP Systems	() 56
③ コンピュータシステムの監査について	On the Audit of Computer System	金井(協 会) 24
④ 入力データのチェックとケーススタディ	Check of Input Data and Case Studies of Computer Assisted Audit	牛島(審議室) 44
⑤ 日本の会計検査制度	Government Auditing in Japan	山田(調査課) 50
⑥ 日本における財政・会計制度	Financial & Accounting System in Japan	阿部(法規課) 28
	計	300
3 本年購入し配布した資料:		
① EDPシステム内部統制の研究	The Auditor's Study and Evaluation of Internal Control in EDP Systems	O A O 67
② コンピュータ会計検査の技術	Computer Assisted Audit Technique	G A O 102
4 その他:		
各国参加者が持参するカンントリーレポート集成(一般的事項、組織、検査、検査報告、コンピュータシステムについて 計37の質問に対する回答)		参 加 各 国
コンピュータベースシステムの会計検査(AUDIT OF COMPUTER BASED SYSTEMS)		O A O 13

3 セミナー実施の結果

(1) ファイナル・レポートの概要

第5回ASOSIセミナーの終了に際し、18名の参加者に、昨年と同様JICAが設定している調査項目に基づき、研修内容等についてのレポートの提出を求めた。その概要を項目別にまとめると次の通りである。

参加者の意見

① 研修内容について

研修内容は、よく企画されており、コンピュータ・システムの検査の関連分野を網羅しており、コンピュータ化された会計システムの検査を行う上での基礎的知識を得ることができたと大部分の参加者が評価している。また、事例研究討論等は有益であり、実際にコンピュータを使用している場面を見ることのできた視察旅行もコンピュータを理解する上で役立つたとしている。

② 研究の実施について

研修は予定どおり実施され十分に有益であったという点で意見が一致している。また、各講義の講師陣、関係者に対する賞讃の声が大きい。

③ HITCでの生活

HITCでの生活は快適で素晴らしいものであったと全員が述べている。またHITCの職員が親切かつ友好的であったとして謝意を表わす意見が多い。ただ食事に関してはもう少し改善してほしいという意見がインドなどの参加者から出ている。

④ その他

研修が有益であったこと、関係者の協力が素晴らしかったことを再度述べている。ただ都心での宿泊先であったグリーンホテルについては係員の対応の悪さなどを指摘した不満の意見があった。

帰国後の計画

① セミナーの成果を本国で適用できるか、またその場合の問題点

コンピュータ・システムの検査について多くの知識を得ることができ、

帰国後この知識を検査実施の上で役立てたいという意見が大勢である。また、研修等の形を通じて各検査院の職員にこの研修内容を伝えようと考えているようである。

また問題点として、インドネシアの参加者は、同国において、E D P検査のケース・スタディやコンピュータを使った実習を教授できる講師が十分に居ないことを挙げている。また、コンピュータの使用料が予算化されていないために研修の成果をすぐに発揮できないという国（フィリピン）もあつた。

② 帰国後 J I C A に要望したいこと

インドネシアの参加者が、「E D P検査の事例研究をコンピュータを使用する実習の講師を J I C A が派遣して下さることをお願いしたい。……局長が同意すれば、更に詳細な点について話し合うことにしたい」と述べ、また、マレーシアの参加者が「訓練を受けるために我が国の会計検査院の職員が日本国検査院に滞在できるよう同院と打ち合わせしていただきたい。」と述べるなど積極的姿勢を表明している。また、研修機会の拡大、資料の送付を望む声が多い。

(2) セミナープログラムの評価

第5回 A S O S A I セミナーの終了に当つて、各講義及び視察旅行について、時間、内容、レベル等につき三択式のアンケートに答えてもらった。その概要は次のとおり。

(講義)

① 「日本の会計検査制度」(6月29日、山田総括副長)

② 「財政・会計制度」(6月30日、阿部係長)

時間は適当であり、内容も面白く役に立つとの評価を得ている。

③ 「コンピュータの利用と会計検査」(6月30日、信原上席調査官)

④ 「コンピュータ入門」(ハードウェア、ソフトウェア) (7月1日、日立・水野講師)

ともに内容が面白い上に非常に役に立つとの評価を得ている。

ように意見を述べている。中でもビルマの参加者が「非常に短期間のうちに新しい概念（汎用プログラムKAPS）を把握するのは、かなり困難であつた。」とコメントしている。

また、全講義に共通の意見としてタイの参加者が「講義はすべて午前9時30分から午後5時まで行われるべきであつた。」としている。

〔見学〕

① コンピュータ工場見学（日立神奈川工場）

インドの参加者が「この見学により、我々はコンピュータ製造会社がどのように運営されているか知ることができた。」とコメントするなど内容が面白い、または非常に役に立つとしている。時間も適当であつた。

② 日本電信電話公社展示室

時間は適当であり、内容も面白いとするものが多い。

③ 都内見学

半数の9名が時間が短かかつたとしており、タイの参加者は日程が午後4時以降も組まれればよかつたとコメントしている。内容についても過半数は面白いと答えているが、バングラデシュの参加者が国立博物館の見学を希望しているのを始めとして、もう数箇所見学することを望んでいる。

④ 京都旅行

5名の参加者が時間が短かすぎたとしており、バングラデシュの参加者は、「最低2泊の予定日数が望まれる」としている。内容については、大多数の参加者が面白いと答えており、インドの参加者は「日本の文化的伝統や歴史を理解することができた。」と感想を述べている。

⑤ 九段コンピュータ・センター見学

3分の2近くの参加者が非常に役に立つたとしている。また時間も適当であつた。

〔その他〕

① 期間について

回答の内訳は適当である：10名、短かすぎる：7名、長すぎる：1名となっている。ビルマの参加者は「セミナー期間は十分だが、プログラムに

- ⑤ 討論「各国の会計検査制度とコンピュータ検査の実状」（7月3日、関本副長）

時間が短かすぎると解答したものが18人中8人を占める。シンガポールの参加者は2日間（一般的事項と検査報告及びコンピュータ検査に各1日ずつ）必要であるとコメントしている。

- ⑥ 「コンピュータ・システムの経済性の検査・ケーススタディ」（7月6日、渡辺調査官）

- ⑦ 「コンピュータ化された会計事務の検査方法」（7月7日、牛島総括副長）

- ⑧ 「同上・ケーススタディ」（7月8日、藤田調査官）

いずれも3分の2以上の参加者が非常に役に立つという回答をしている。さらに、4～5名は時間が短かすぎるとしている。なかでもシンガポールの参加者は、「さらに1日あるいは半日、加えられればよかった。」としている。

- ⑨ 「官庁会計事務データ通信システム・不正防止システム」（7月9日、上田調査官）

時間は適当であり、内容も非常に役に立つ、または面白いとしている。

ここまでの各講義は、レベルは適当であると全参加者の見解が一致している。

- ⑩ 汎用プログラムNHELP紹介（7月13日、日立・藤居講師）

- ⑪ NHELP実習（7月14日、同上）

インドの参加者が「講義はもつと時間をかけ、詳しく説明されたい。」とコメントするなど時間が短かすぎるとの回答が4～5名から得られた。短い時間で理解するためには、レベルは高度にすぎたとの意見があり、また、実習にもう少し時間をかけてもらいたいとの見解がバングラデシュ、パプアニューギニアの参加者から示された。

- ⑫ コンピュータ・システムの内部統制（7月15日、金井公認会計士）

- ⑬ EDP監査ケーススタディ（KAPS実習）（7月16日、同上）

- ⑭ 同上（ディスカッション）（7月17日、同上）

内容は非常に役に立つ、または面白いとしているが時間が短かすぎるとの回答が多く、特にディスカッションの折、参加者の半数の9名がその

については見直しが必要と思う。主要プログラム用の時間を確保するためにオリエンテーションは短かくしたらどうか」と述べており、これと同様の意見をシンガポールの参加者も記している。短かすぎたという人は5～8週間程度が必要としている。

② 参加者の数について

18名全員が適当と答えている。

③ 日本の会計検査院職員との接触について

適当であると答えたもの16名、不十分と答えたもの2名となっている。ただ、シンガポールの参加者は「開講式は1週間経てからでなく、4週間のセミナー期間の初日に行つた方がおそらく、よりよかつたであろう。」と述べている。

④ 第4回セミナー（昨年）の参加者の現況

副院長、局長、主任検査官等の職において、政府や公企業の検査に携わつている。コンピュータ・センター次長に就任している人（バングラデシュ）や、大型コンピュータ・システムの設置されている局に勤務している人（マレーシア）もいる。

(3) 今後の諸問題

各国参加者の意見とそれぞれに対する見解

- ① 運営形式が、セミナー方式というよりトレーニング方式となつている点について賛否両論があつた。この点に関しては、国際協力事業団（JICA）の運営方式では、トレーニング方式が多いこと、セミナー方式とする場合には、テキスト等の資料の内容、日本側の担当者など多くの面で現行方式を変更する必要があることを考慮する必要がある。
- ② 討論の時間を多くして欲しいという要望があつた。これは①の運営方式とも絡む問題であるが、本年は各国のカントリー・レポートを基に討論する時間を1日設け、これが好評であつた。来年引続き開催するとすれば、このような機会を増やすことが望ましいと考える。
- ③ 期間の長さについては、短いという意見と適当であるという意見と

両論があつた。また、適当とする者でも、内容について、もつとコンピュータに関する時間を多くするようにとの要望があつた。期間の延長についてはJICAの施設等の問題もあり、また、内容についてもJICAとの調整が必要であろう。

- ④ 各国の会計検査制度が異なっているのでこの点について具体的な事例を含めて討論をやりたいという要望があつた。これは、②で述べたカントリー・レポートに基づく討論をさらに深めたいとの希望で、②で述べたような対応が望ましいと考える。
- ⑤ 日本側からも研修生としての参加者がいた方が良いとの意見があつた。特にケース・スタディなどでは討論に参加した方が良いとの意見であつた。これについては、来年引続き開催するとすれば、日本側からも数人の参加者があつた方が良いと思われる。
- ⑥ コンピュータ化された会計事務の検査方法について、もつと時間をかけ、さらに多くのノウハウや知識を提供して欲しいとの要望があつた。これについては、関係する講座の説明を詳しくするなどして対応する要があると思われる。
- ⑦ コンピュータ化された会計事務の検査方法として、コンピュータを使わないでもできる検査方法についても説明して欲しいとの要望があつた。これについても関連の講座で対応する要があると思われる。
- ⑧ 実際の検査にも参加したいとの要望があつた。これは、セミナーと切離して考えるべき問題であり、言語の問題もあるので難しいと思われる。
- ⑨ EDP監査ケーススタディで汎用監査プログラムKAPSを用いて実習を行つたが、出力結果について十分な説明がなされなかつた、との意見があつた。この講座は本年はじめて設置されたものであるので、本年の経験を基に、時間の配分、実習の進め方等も検討するとともに、時間の延長も合わせて検討する要があると思われる。
- ⑩ JICAへの要望として、参考図書をもつと備え付けて欲しいとのことであつたので、この旨をJICAに伝えることとしたい。
- ⑪ 今後もメンバー相互間の交流を続けたいとの希望があり、調査課でその方策等について検討したい。

